

# 別所温泉周辺を巡る旅

右手遠方に前山寺本堂の屋根が見える



随分と標高の高い場所です



冠木門



樹齡350年前後と言われる大ケヤキ



# 市指定記念物

上田市文化財保護条例第五条の規定により左記のとおり指定する

記

- 一 種別 記念物
- 一 名称 前山寺 参道並木
- 一 所在地 上田市大字前山字上神戸三〇〇番地
- 一 指定年月日 昭和五十四年四月九日

参道黒門右側のケヤキの大木からつついて、三重塔に向う約一五〇メートルの間にマツサクラを主とした並木が参道の両側をおおっている

目通り周囲二〇〇メートルから三二五メートル樹高二〇メートル余、樹齢三五〇年前後におよぶと推定される老松六本のほかに補植された若松が拾数本ある。また参道の左側には老松と同樹齢とみられる切株が往時の痕跡を残している。このことからもとものは参道全域が松並木として植栽されたものであったことがわかる。

前山寺参道並木は、市内に残る最も古い参道並木として貴重である

## 保存上の注意

- 指定物件周辺の環境を整備・整頓すること
- 許可なく現状を変更することを禁ず

昭和五十四年四月

上田市教育委員会

# 前山寺縁起

- 一 当山は、新義真言宗の寺院で、本尊は大日如来、かつては信州四ヶ談林の中に数えられた経学の殿堂であり、塩田城の鬼門に位置してその祈願寺でもあった。
- 一 往昔、弘仁年中、独股山を護摩修業の霊場として創立、はじめは古義真言にして法相・三論両宗を兼ね、法蔵坊・花蔵坊・地藏院といっていたが、鎌倉時代に讃岐国善通寺の長秀上人、伽藍建立を発願してこの地に未止し、その規模を拡大して、正法院前山寺としたと伝えられている。
- 一 爾来世代を重ねること三十六世、何れも談林住持としての名にふさわしい名僧智識であったが中でも第二世祐俊上人は事教兼備の学僧で、七堂伽藍整備をすると共に、興教大師の教相を慕って新義を信奉し、二十巻に亘る写経を残している。
- 一 第十一世真海僧正は、甲州武田家の信頼厚く天正八年には武田勝頼から十貫四百九十文の朱印安堵状を下附された。この朱印状は、上田市の文化財に指定されている。
- 一 尚又第三十五世中島栄知大僧正は、華嚴経を専攻した学僧で、その晩年には新義真言宗の総本山紀州根来寺の座主に就任、本堂前にそのブロンズ座像がある。
- 一 境内にある三重塔は、室町時代の建立といわれ、国の重要文化財に指定されている。
- 一 奥の院独股山（弘法山）には、弘法大師を祀った岩屋堂があり、江戸時代にはここに西国三十三所観音を勧請し、近郷の信仰を集めたことのある景勝の地である。

昭和四十七年五月 誌

独股山 前山寺

後方は薬医門



薬医門から前方に三重塔を見る





獨鈷山とある





アビラウンケンの碑



宝経印塔という



三重塔/室町時代/重要文化財



和様と禅宗様との折衷様式とのこと



# 国指定重要文化財

記

- 一 種別 有形文化財（建造物）
- 一 名称 前山寺 三重塔
- 一 所在地 上田市大字前山寺上神戸三百番地
- 一 指定年月日 大正十一年四月十三日

この塔の特徴は、二・三層に扉も窓もなく、また廻縁も勾欄もなく、横板壁を張りつめ、各柱の下部からは長い貫が四方に突出していることである。

これは、未完成のためで、各柱の上部壁きわに切込があることから肯ける。しかし、見た目には不自然さを感じられず、安定と調和を保つみことな姿といえる。

この塔の様式は、鎌倉時代末期にはじまった和様と禅宗様との折衷様式である。

建立年代は、様式上室町時代と推定される。

## 保存上の注意

- 許可なく指定文化財の現状を変更することを禁ず
- 指定建造物の周囲で喫煙、たき火等を禁ず

昭和五十三年四月

文化庁

上田市教育委員会









以下のようなことがあるにもかかわらず、安定感と調和があり美しい姿をしていることから「未完成の完成塔」と呼ばれている

二重、三重とも柱ごとに持出桁が四方に突き出している→縁板を張るはずだった

二重、三重とも柱の上方にどの柱も両側から切り込みが入っている→長押を付けるはずだった

二重、三重とも柱のちょうど中央にあたる所の組物(詰組)の斗の下に四角い穴があいているにもかかわらず斗を受ける束(間斗束)がない

二重、三重とも壁を見ると扉や窓がなく単なる板壁になっている



















明王堂



本堂









本尊  
大日  
南無  
南無

真言宗  
御殿

第三十五世中島栄知大僧正(総本山紀州根来寺座主)





鐘樓堂



## 独鈷山岩屋堂(奥の院)

前山寺の奥の院として、岩屋の中に弘法大師が安置されている。その昔、護摩修行の霊場であったと伝えられているところである。独鈷を以ってお加持をしたところ水が沸出したので、独鈷山と呼ぶようになり、前山寺の山号になっている。寛政5年(1793)に、この山の岩をうがって、木仏の西国三十三番観音を祀り、近隣の信仰を集めていたが、明治になって仏像の破損などから、これを前山寺に移し、今日に至ったが、平成元年5月に近隣の石工組合の協力を得て石仏の観音像が復元された。籠堂もあり、景勝の地である。



奥の院の木版



独鈷山麓の前山寺